

「他者と協働し主体的に取り組む学習活動の工夫

～ICTを活用した実践を通して～」

都城市立今町小学校 堀切 麻美

1 主題設定の理由

(1) 学習指導要領との関連から

平成29年3月に公示された学習指導要領では、これからの時代に求められる資質・能力が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に再整理され、各教科等の目標や内容が示されている。そして、このような資質・能力を身に付け、子どもたちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて理解し、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善及び授業づくりが求められている。「情報活用能力」が子どもたちの学習の基盤となる資質・能力として明確に示され、ICTが高度化していく社会において、情報活用能力の育成を通して「生涯にわたって能動的に学び続ける」力を育むためには、子どもたちが日常的にICT機器を活用できる環境を整えるとともに、これを生かした学習活動の充実を図ることが重要である。

そこで、これまで以上にICT活用をした小学校の学びはどうあるべきかを深めるために本主題を設定した。

(2) 本学級の実態から

本学級は、3学年児童25名で、学習に積極的に取り組む児童が多い。しかし、社会の学習において、ICTを活用することは初めてであり、1学期から少しずつ、ICTの活用に取り組ませてきたところである。本学級で、他者と協働し、主体的に学習活動に取り組ませるためにICTの活用は大変重要なことであると考えている。

2 研究の目標

第3学年の社会科学習において、ICTを活用した実践を通して、他者と協働し主体的に取り組む学習活動の在り方を究明する。

3 研究の仮説

第3学年の社会科学習において、課題設定を工夫し、ICT活用を工夫することにより、児童が他者と協働し主体的に学習活動に取り組むであろう。

4 研究内容

(1) 課題設定の工夫

- ① 課題の表現
- ② 学習活動内容のイメージ化

(2) ICT活用の工夫

- ① 資料の選択のさせ方の工夫
- ② グーグルクロームのジャムボードの活用

5 研究の実際

(1) 課題設定の工夫

① 課題の表現

児童が学習に主体的に取り組むことができるように、児童に提示する課題は、児童が追求したくなるように、疑問形で表現するようにした。

- (例) ○ 学校の防火設備はどこにあるのだろう。
○ なぜ工場は集まっているのだろうか。
○ どうしたらしょうゆができるのだろう。

このように、課題を疑問形で表現することにより、追求しようとする意欲が高まり他者と協働して問題解決しようとする姿が見られた。

② 学習活動内容のイメージ化

児童が学習に主体的に取り組むことができるように、学習内容のイメージをもたせるようにした。様々な調べ方を提示し、ジャムボードでのまとめの例を示した。

(例) 調べる・・・教科書、インターネット
深める・・・班での話し合い、全体での話し合い
(ジャムボードを使って)

このように、児童にゴールイメージをもたせたことにより、児童は、教科書で調べたり、タブレットで教科書に載っていないものを見たり、自分たちで調べてまとめようと学習内容に興味関心をもち始めた。



(2) ICT 活用の工夫

① 資料の選択のさせ方の工夫

児童が学習に主体的に取り組むことができるように、資料を複数準備し、児童が自ら選択をすることができるようにした。

〇〇を調べるための資料
・・・(複数の中から選ばせる)
・コノマチ☆リサーチ
(NHK for school)
・24時間密着 消防士の1日
・インターネット ・学校図書

タブレットで様々な資料を集めることで、児童が自分たちの学習に必要な資料を取捨選択できるようになった。



高崎県都市消防局【24時間密着 消防士の1日】
高崎県都市 動画数 2,690
チャンネル登録数 2,690

② グーグルクロームのジャムボードの活用
他者と協働して学習を進めることができるように、グーグルのジャムボードを活用して児童同士の考えや違いの共有をできるようにした。また、発表資料やこれまで学習したことを協力してまとめることによって理解を深めた。



6 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 児童に提示する課題設定を工夫し、学習活動内容をイメージ化させたことにより、児童が資料を調べたり、話し合ったりして、主体的に課題を追求しようとする様子が見られた。
- ICT 活用を工夫したことにより、児童が自ら資料を選択することで、グーグルクロームのジャムボードで発表資料を作るなど、主体的に協働する学習を進めることができた。

(2) 今後の課題

グーグルクロームのジャムボードでは、個人がどのように思考したのかが、確認しづらいため、さらに活用の仕方を工夫していく必要がある。